

# 第72回研究大会プログラム

JAPAN SOCIETY for the STUDY of ADULT and COMMUNITY EDUCATION : the 72nd Annual Conference

日時 2025年9月12日(金)～14日(日)

会場 鹿児島大学 郡元キャンパス

9月 12日 金	12:30～ 受付			13:00～15:30 会場校企画 「揺れ動く地方社会教育」	15:45～18:15 特別プロジェクト 「大学と地域・社会のはざままで揺れる社会教育人材養成」	18:30～20:30 理事会/ 若手研究者の集い	
	9:00～ 受付	9:30～11:30 自由研究発表	昼 食	12:30～14:30 自由研究発表	14:45～16:15 倫理研修	16:30～18:00 総会	19:00～21:00 懇親会
13日 土	8:30～ 受付	9:00～12:00 プロジェクト研究 「多文化・多民族共生を目指す社会教育の挑戦」 「男女平等・ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性」	昼 食	13:00～16:00 ラウンドテーブル①～④	13:00～15:00 ラウンドテーブル⑤		
14日 日							

## 【大会開催について】

例年9月は鹿児島県への台風の上陸が懸念されます。その場合は、学会の方針「自然災害等により集会開催に影響が予想される場合の対応について」に基づき、前日までに対面開催の可否及び代替策を企画者ならびに三役及び組織財政担当理事で協議し、結果は学会ホームページ及び会員一斉メールで周知いたします。

## 【目次】

◇第72回研究大会・ご案内	2
◇第72回研究大会への参加について	3
◇会場案内	
鹿児島大学 郡元キャンパスへのアクセス	4
鹿児島大学 郡元キャンパス構内案内図	5
会場一覧	6
共通教育棟1・2号館、稲盛アカデミー棟案内図	7
◇第1日目(9月12日)プログラム	
会場校企画「揺れ動く地方社会教育」	8
特別プロジェクト「大学と地域・社会のはざままで揺れる社会教育人材養成」	9
若手研究者の集い	9
◇第2日目(9月13日)プログラム	
自由研究発表 第1室～10室	10
倫理研修会/総会/懇親会	20
◇第3日目(9月14日)プログラム	
プロジェクト研究「多文化・多民族共生を目指す社会教育の挑戦」	21
プロジェクト研究「男女平等・ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性」	22
ラウンドテーブル①～⑤	23

# ■ご案内

## (1) 受付案内

- ①会場案内は4頁、教室案内は6頁をご参照下さい。 \*敷地内禁煙です  
②受付設置場所・時間はつぎのとおりです。  
1日目(9/12): 12:30 ~ 稲盛アカデミー棟 1F エントランス  
2日目(9/13): 9:00 ~ //  
3日目(9/14): 8:30 ~ //

## (2) 参加受付について

※研究大会への参加は、事前申込&事前振込。懇親会の参加は事前申込みとし懇親会費は当日集金します。

### ①参加費

会 員：一般 2,500 円 (但し、学会に院生登録している方は 1,500 円)

非会員：一般・大学院生 2,500 円、大学生 0 円 (学生証提示)

- ・尚、準備の都合上、事前申込後のキャンセルの場合 (台風等の天災による場合も) 返金には応じられませんのでご了承ください。

### ②懇親会費 (9/13 当日集金)

一 般 5,500 円、大学院生・大学生 3,300 円

- ・当日の申込受付はありませんので、必ず事前に参加申込みをしてください。
- ・尚、懇親会参加のキャンセルは 9/4 (木) まで受け付けます。9/5 (金) 以降のキャンセルについては懇親会費全額お支払いいただきます。
- ・但し悪天候により懇親会が中止になった場合は懇親会費の徴収はございません。

### ③昼食

各自でご準備ください。※会場でのお弁当販売はありません。  
食堂の利用は出来ます (詳細は 5 頁をご覧ください)。

## (3) 会場案内

\*各プログラムの会場は 6 頁参照

- |                |                         |        |
|----------------|-------------------------|--------|
| ①参加者控室         | 共通教育棟 2 号館 1F           | 211    |
| ②大会本部・三役控室・事務局 | 稲盛アカデミー棟 1F             | A13    |
| ③全国理事会         | 共通教育棟 2 号館 1F           | 213    |
| ④若手研究者の集い      | //                      | 1F 214 |
| ⑤総会            | 共通教育棟 1 号館 2F           | 121    |
| ⑥懇親会           | 稲盛記念館 2 階 (ヴェジマルシェ '19) |        |

## (4) その他

- ・発表者は、当日配布資料がある場合、会場でのコピーは出来ませんので、事前に十分な部数 (約 50 部位) をご用意下さい。

## (5) 問い合わせ先

農中 至 (鹿児島大学) 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30

Tel : 099-285-7603 E-Mail : nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp

## ■第 72 回研究大会への参加について

参加受付は事前申込みのみとさせていただきます。

**参加費の振込みのみ、または参加申込みのみだけでは参加受付とはなりませんのでご注意ください。**

参加希望の方は、学会ホームページよりオンライン参加登録手続きを行っていただきます。(オンラインで手続きが出来ない場合は、事務局までご連絡いただければ手続きいたします。)

尚、要旨などの配布はご登録のメールアドレスに通知いたしますので、メールアドレスの登録はお間違えの無いようお願いいたします。

要旨集等については 9 月 10 日 (水) までにメールでご案内いたします。大会前日になってもご案内が届かない場合は事務局までお知らせください。

※準備の都合上、お申込み後のキャンセルはご遠慮ください。

### ●オンライン事前参加申込受付：8 / 1 (金) ~ 8 / 20 (水)

学会HPのトップ画面にある<研究大会参加申込システム>から参加登録をしてください。

当日受付はございませんので、必ず事前申込をお願いいたします。

会員の方は、申し込みの際には会員 ID (ログイン ID) を必ず記入し、所属は学会に登録してある所属先を記入してください。

非会員の学部生は、学生証を添付の上、参加費無料になります。

### ●参加費の支払い：事前振込 (遅くとも 8 / 25 (月) までに)

こちらで入金の確認が出来ない場合は参加申込みを受付出来ない場合があることご了承ください。

<振込先> ゆうちょ銀行 振替口座 00150-1-87773

他金融機関からの振込用口座番号 ○一九 (ゼロイチキュウ) 店 (019) 当座 0087773

口座名：日本社会教育学会

振込金額： [会 員 一般 ¥2,500、大学院生 ¥1,500]

[非会員 一般 ¥2,500、大学院生 ¥2,500]

振込みの際には、必ず氏名 (所属) をご記入ください。

**日本社会教育学会事務局** <HP <https://www.jsace.jp/>>

〒189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10- 1 F

E-Mail : [jsace.office@gmail.com](mailto:jsace.office@gmail.com)



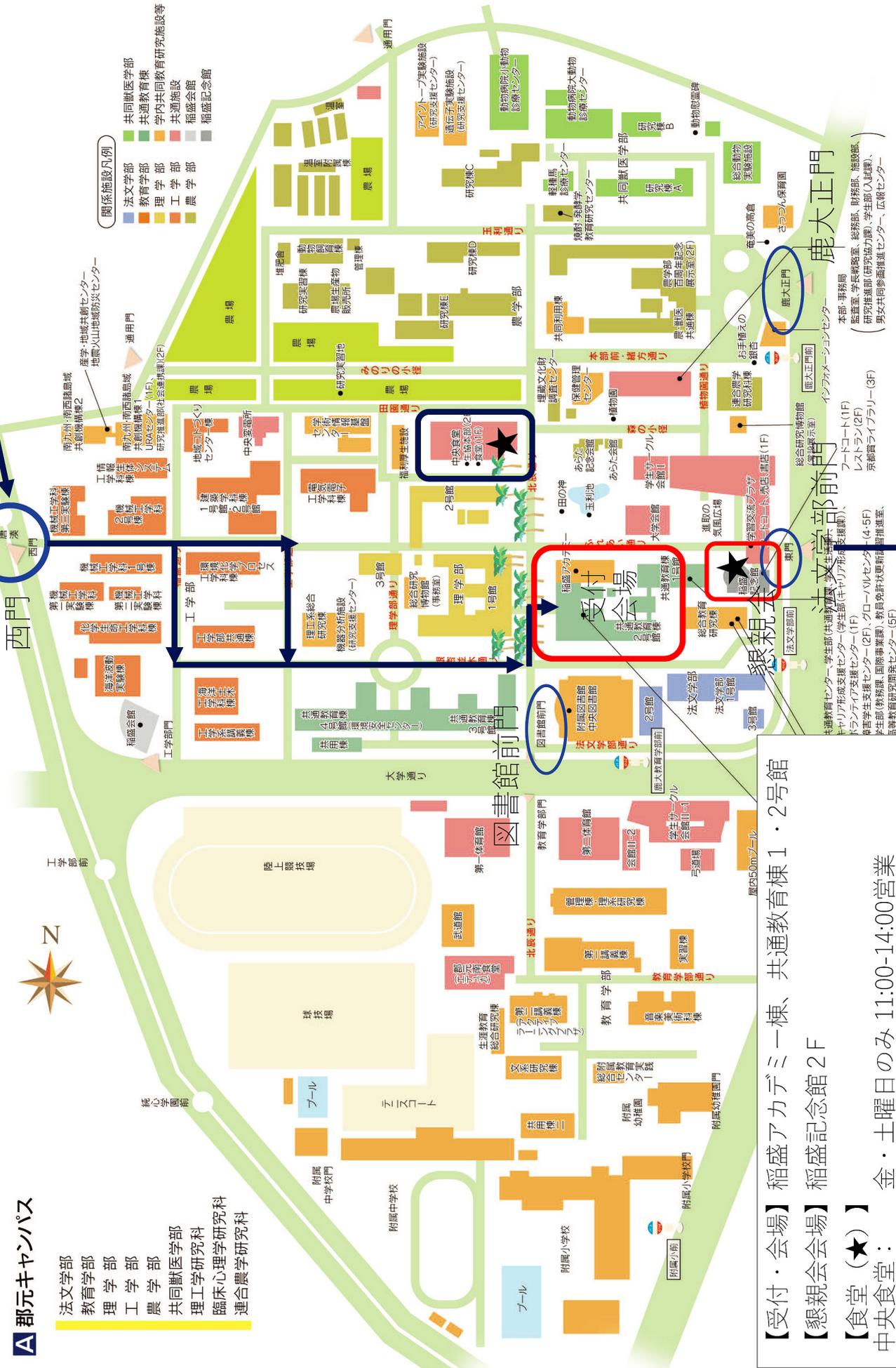
# 鹿兒島大学 (郡元キャンパス) 構内案内図

鹿児島中央駅

市電「唐湊」下車

桜島側

市電「騎射場」方面★飲食店あり



- A 郡元キャンパス**
- 法文学部
  - 教育学部
  - 理学部
  - 工学部
  - 農学部
  - 共同獣医学部
  - 理工学研究科
  - 臨床心理学研究科
  - 連合農学研究科

- 関係施設凡例**
- 法文学部
  - 教育学部
  - 理学部
  - 工学部
  - 農学部
  - 共同獣医学部
  - 共通教育棟
  - 学内共同教育研究施設等
  - 共通施設
  - 稲盛会館
  - 稲盛記念館

**【受付・会場】** 稲盛アカデミー棟、共通教育棟1・2号館

**【懇親会場】** 稲盛記念館2F

**【食堂 (★)】**

中央食堂： 金・土曜日のみ 11:00-14:00営業

稲盛記念館1F： 金曜日のみ 10:30-15:00営業

稲盛記念館2F： 全日 11:00-15:00 (最終入店14:00) 営業

# ■会場一覧

## 9月12日(金)

会場校企画	共通教育棟	1号館	1F	111
特別プロジェクト	〃	〃		
全国理事会	共通教育棟	2号館	1F	213
若手研究者の集い	〃	2号館	1F	214

## 9月13日(土)

自由研究発表	第1室	共通教育棟	1号館	1F	111
自由研究発表	第2室	共通教育棟	2号館	1F	212
自由研究発表	第3室	〃	2号館	1F	213
自由研究発表	第4室	〃	2号館	1F	214
自由研究発表	第5室	〃	2号館	1F	215
自由研究発表	第6室	〃	2号館	1F	216
自由研究発表	第7室	〃	2号館	1F	217
自由研究発表	第8室	稲盛アカデミー棟		1F	A11
自由研究発表	第9室	〃		1F	A12
自由研究発表	第10室	〃		1F	A14
倫理研修		共通教育棟	1号館	2F	121
総会		〃		〃	
懇親会		稲盛記念館内2階(ヴェジマルシェ'19)			

## 9月14日(日)

プロジェクト研究<第1室>	共通教育棟	1号館	1F	111
プロジェクト研究<第2室>	〃	1号館	2F	121
ラウンドテーブル(RT)①	共通教育棟	2号館	1F	212
ラウンドテーブル(RT)②	〃	2号館	1F	213
ラウンドテーブル(RT)③	〃	2号館	1F	214
ラウンドテーブル(RT)④	〃	2号館	1F	215
ラウンドテーブル(RT)⑤	〃	2号館	1F	217

## 9月12～14日共通

受付	稲盛アカデミー棟	1F	エントランス	
参加者控室兼打ち合わせ室	共通教育棟	2号館	1F	211
大会本部・三役控室・事務局	稲盛アカデミー棟	1F	A13	



## 会場校企画

### 揺れ動く地方社会教育

—鹿児島県下市町村・広域行政・離島のいま—

13:00~15:30 共通教育棟 1号館 1F 111

司会 酒井佑輔（鹿児島大学）

報告者 市来真美（かごしま県民大学中央センター所長 兼 生涯学習課長）

永山由高（鹿児島県日置市 市長）

野崎凡央（鹿児島大学法文学部法経社会学科地域社会コース3年）

矢神明愛（鹿児島大学法文学部法経社会学科地域社会コース4年）

コメンテーター 穂園正幸（鹿児島県大崎町 教育長）

農中 至（鹿児島大学）

内容 会場校企画シンポジウムでは、本学会で議論される前提条件が鹿児島社会教育の実態と異なっているという見解に基づき、これらを鹿児島社会教育の地域特性として示しながら、地方社会教育の一つの来歴として提起したいと考えている。

鹿児島県は、戦後社会教育の発展段階として固有性をもっており、その一例が、従来の派遣社会教育主事論では語れない地域の実情がある。このことは、市町村社会教育職員による社会教育、あるいは、市町村社会教育専門職によってつくられた社会教育という認識では語れないことを意味する。くわえて、米軍統治下に置かれた奄美群島やトカラ列島においては、県本土とはまた異なる発展形態（公的社会教育導入の功罪）が見受けられる。

そこで、今回の大会では、冒頭にシンポジウムの趣旨として基調提案 / 報告を行い、①広域社会教育・生涯学習行政（都道府県）、②一般行政の二つの立場から鹿児島の最先端の動きについて語ってもらう。また、③9年目を迎えた鹿児島大学法文学部社会教育主事養成課程に在籍し、島の生活経験をもつ学生の視点から、社会教育主事養成の今と離島の関係について話題提供をしてもらう。そのうえで、三つの報告を過去から現在に連なる鹿児島社会教育の文脈に落とし込み、本学会の議論に貢献するために次の二つのコメントを用意する。一つは、鹿児島社会教育の実践・現場（派遣社会教育の流れを汲む鹿児島社会教育の一つの象徴的立場）から、二つ目は、社会教育理論・研究からである。

## 特別プロジェクト

### 大学と地域・社会のはざままで問い直す 社会教育主事・社会教育士養成

15:45~18:15 共通教育棟1号館1F111

司会 村田和子(和歌山大学(名))・井上大樹(札幌学園大学)

報告① 「養成課程調査・主事講習調査から」

社会教育士特別プロジェクト養成課程部会・主事講習部会

報告② 「社会教育主事・社会教育士養成研究の射程と今後の課題」

上野景三(西九州大学)

報告③ 「愛知教育大学における社会教育主事・社会教育士養成と地域連携」

大村 恵(愛知教育大学)

報告④ 「天理大学における社会教育主事・社会教育士養成と地域連携」

佐々木保孝(天理大学)

コメンテーター 林 剛史(文部科学省総合教育政策局地域学習推進課)

内容 この間の特別PJ調査活動からみえてきた一つに、養成に携わる大学のおかれた厳しい状況がある。多くの会員が社会教育主事・社会教育士の養成・研修に意義を感じ学内外で努力しているが、大学内の理解はじめ、養成研修を支える体制は極めて厳しくなりつつある。「社会教育士」称号の登場を起点に、国は新たな社会教育推進体制を提起し、連動して必修化された実習・演習の運営や主事講習でほぼ必須化しているオンライン対応など、各大学機関は以前にまして養成研修に力を注いでいるにもかかわらずである。期待と現実的体制の間の実践的矛盾は一層大きくなる中で、養成から大学が離脱し県行政が職員養成を引き受ける事例や、大学養成課程の立場のゆらぎも生じつつある。

本大会では〈大学で社会教育主事・社会教育士を養成することの意味や価値〉を再考したい。ここには、養成への研究的貢献、大学を中核に地域の各主体がつながる可能性、養成課程修了者の学びの継続、養成主体の側の力量形成、といった問題がかかわることだろう。いわば〈大学と地域にまたがる社会教育主事・社会教育士養成の意味や価値〉が問われていると考える。

今回の企画では、①部会調査結果に基づく大学をとりまく実態の検証、②戦前からの歴史的目線による本テーマの検証、③大学の養成を中核とした地域・自治体への関与(大学としての社会教育実践)の検討、を通して、本テーマを深めていきたい。議論を通して、大学—地域をむすぶ「しくみ」への展望とともに、大学が関与するからこそその社会教育職員養成の「教育的内実」に届く議論が生まれることを期待したい。

以上より、1年後のPJまとめを念頭に、各部会調査を横串にする議論、および昨今の政策展開に対応した研究方向性の学会的共有をめざしたい。

## 若手研究者の集い

18:30~20:30 共通教育棟2号館1F214

## 自由研究発表

午前 9:30 ~ 11:30 / 午後 12:30 ~ 14:30

(共同研究者は○印が登壇者)

### 第1室 午前 〈原理・思想〉

共通教育棟 1号館 1F 111

司 会 松本 大 (東北大学)

9:30 ~ 9:55 「社会教育」概念把握方法の再検討の試み

—上原専祿「主体性形成と学習」論研究(その12)—

片岡弘勝 (奈良教育大学)

9:55 ~ 10:20 コミュニティ・ストーリーの再編集による地域的教養の拡張

—物語論批判との関連で—

宮崎隆志 (北海道文教大学)

10:20 ~ 10:45 アメリカ合衆国成人教育成立過程の研究—リーダーシップ概念の再考

堀本麻由子 (東洋大学)

(討論 10:45 ~ 11:05)

### 第1室 午後 〈歴史〉

共通教育棟 1号館 1F 111

司 会 野依智子 (福岡女子大学)

12:30 ~ 12:55 婦人雑誌にみる読者の「家庭」をめぐる悩み

~明治後期から大正期の『婦人之友』の投稿欄を手掛かりに~

徐真真 (名古屋大学)

12:55 ~ 13:20 第一次大戦期イングランドにおける労働者教育協会による学校教育と

児童労働をめぐる議論

土井貴子 (岡山理科大学)

13:20 ~ 13:45 発足期大阪市社会教育行政の一考察

—関一の市民観と大阪市育部幹部職員の思想を中心に—

柴田昌美 (大阪教育大学大学院)

13:45～14:10 フール（豚便所）廃止の観点から見た生活改善運動

瀧端真理子（追手門学院大学）

（討 論 14:10～14:30）

## 第2室 午前 〈歴史〉

共通教育棟 2号館 1F 212

---

司 会 上原直人（名古屋工業大学）

9:30～9:55 教化動員期の市町村社会教育計画

—宗教の位置づけを中心に—

松岡悠和（大阪公立大学）

9:55～10:20 昭和期の文部省社会教育政策の特質

—活動写真事業に焦点を当てて—

松山鮎子（早稲田大学）

10:20～10:45 戦時下における青少年団体の統合過程

—大日本連合女子青年団本部に注目して—

新井浩子（常葉大学）

（討 論 10:45～11:05）

## 第2室 午後 〈歴史〉

共通教育棟 2号館 1F 212

---

司 会 村田晶子（早稲田大学）

12:30～12:55 戦後ミニコミの思想史と山代巴の継承

：農村女性の文化実践にみる地域民主主義の可能性

Comastri Chiara（慶応義塾大学）

12:55～13:20 千野陽一の農村女性教育論に関する一考察

陳佳虹（東京農工大学大学院）

13:20～13:45 1970年代前半における「母親教育」の模索

—雑誌『母と子』を手がかりに—

山梨あや（慶応義塾大学）

（討 論 13:45～14:05）

司 会 田所祐史 (京都府立大学)

- 9:30～9:55 社会教育行政における学校教育支援機能の研究 (その1)  
—GHQによるPTA施策の浸透と東京都社会教育行政の受容・展開過程—  
梶野光信 (日本大学)
- 9:55～10:20 都市新中間層の学習活動と社会教育行政による関与の実態  
—高度経済成長期における公団住宅・西武庫団地を事例として—  
久井英輔 (法政大学)
- 10:20～11:00 昭和戦後期における地方工業都市での青年期教育の展開  
—山形県長井市の状況、特に郡是製糸長井工場の周辺に着目して—  
○安藤耕己 (山形大学)、○板橋孝幸 (奈良教育大学)  
久井英輔 (法政大学)、倉知典弘 (吉備国際大学)  
大蔵真由美 (松本大学)、栗山 究 (法政大学 (非常勤))  
竹淵真由 (東京都教育庁)
- (討 論 11:00～11:20)

司 会 堀 薫夫 (大阪教育大学・名誉教授)

- 12:30～12:55 日本における高齢者教育思想の基層  
：楽生学園創設過程にみる小林文成の理念形成  
久保田治助 (早稲田大学)
- 12:55～13:20 多世代型昔遊びワークショップを通じた成人期の音楽をめぐる  
自己認識の再構築  
八木美華 (東北大学大学院)
- 13:20～13:45 高齢者が親しい他者の死を受容するための支援  
—中国の社区高齢者教育におけるデス・エデュケーションの学習内容の探究  
王倩然 (東京外国語大学)
- (討論 13:45～14:05) (討議 14:10～14:30)

## 第4室 午前 〈学習主体〉

共通教育棟 2号館 1F 214

司 会 富永貴公（都留文科大学）

9：30～9：55 フェミニスト・クリスチャンの活動をその社会教育的意義

矢内琴江（早稲田大学）

9：55～10：20 からだ・性に関するインフォーマル学習の研究

—ミニコミ誌『女から女たちへ』に着目して—

川上優貴（東洋大学大学院）

10：20～10：45 戦時期の幼児のジェンダー

—『ミクニノコども』に着目して—

森岡伸枝（畿央大学）

（討 論 10：45～11：05）

## 第4室 午後〈学習方法・学習過程、学習の組織化、実践分析〉 共通教育棟 2号館 1F 214

司 会 池谷美衣子（東海大学）

12：30～12：45 働くことの意味を問う社会教育実践に関する研究

—区民企画運営講座の実践に着目して—

○森本彩里紗（東洋大学大学院）、堀本麻由子（東洋大学）

12：45～13：05 学習講座における関係づくりと、関係づくりによって得られる学び

—困難と可能性に着目して

中尾友香（中央大学大学院）

13：05～13：30 関係性の中でつくる自治

—子どもの語りを見るフリースクールのミーティング実践

宇陀直紀（大阪公立大学大学院）

（討 論 13：30～13：50）

**第5室 午前〈学習方法・学習過程、学習の組織化、実践分析〉 共通教育棟 2号館 1F 215**

---

司 会 岩槻知也（京都女子大学）

9：30～9：55 自主夜間中学運動における課題意識の再構成

長谷川実（北海道大学大学院）

9：55～10：45 コロナ禍で識字・基礎教育現場では何があったのか

—領域横断的調査の試み—

○金侖貞（東京都立大学）、

○棚田洋平（一般社団法人部落解放・人権研究所）

○添田祥史（福岡大学）、○肥後耕生（豊岡短期大学）

新矢麻紀子（大阪産業大学）、江口 怜（摂南大学）

横関理恵（拓殖大学北海道短期大学）

10：45～11：25 被差別部落における識字活動の多様性と課題

○菅原智恵美（大阪公立大学）、○森 実（大阪教育大学）

（討 論 11：25～11：45）

**第5室 午後〈学習方法・学習過程、学習の組織化、実践分析〉 共通教育棟 2号館 1F 215**

---

司 会 松田弥花（広島大学）

12：30～12：55 認知症者の社会的包摂に向けた市民への意識啓発のあり方に関する動向

—オーストリアを事例として—

鈴木尚子（徳島大学）

12：55～13：20 医療的ケア XR シミュレーション教材共有システム構築の課題と

サービス提供体制構築の可能性

コリー紀代（北海道大学）

13：20～13：45 持続可能な消防団における教育・訓練システムの検討

—東松島市の事例から—

磯部孝之（東北大学大学院）

（討 論 13：45～14:05）

第6室 午前 〈学習支援者〉

共通教育棟 2号館 1F 216

司 会 辻 智子（北海道大学）

9：30～9：55 地域実践における学習支援者の排除性とオートエスノグラフィの可能性

出川真也（NPO 法人里の自然文化共育研究所）

9：55～10：20 外国につながる中学生を対象とした教科学習支援における英語支援者の意識

宇津木奈美子（獨協大学）

10：20～10：45 性の多様性をめぐる課題に公民館主事はどのように向き合っているか

—ある中山間地域でのインタビューから—

正木 僚（筑波大学大学院）

（討 論 10：45～11：05）

第6室 午後 〈施設〉

共通教育棟 2号館 1F 216

司 会 堀本麻由子（東洋大学）

12：30～12：55 ブックトークの実践を通じた公立図書館における学び直し支援に関する考察

矢ヶ井那津（北九州市立大学）

12：55～13：20 公共図書館における日本語多読支援の課題

小川和子（筑波大学大学院）

13：20～13：45 男女平等推進センターでの講座の変遷

～東京都杉並区に着目して～

赤池紀子（川崎市人権・男女共同参画室）

13：45～14：10 市民参加と公民館等の運営形態に関する研究

～「市民運営施設」が持つ可能性～

藤本 隆（滋賀大学）

（討 論 14:10～14:30）

司 会 上野景三 (西九州大学)

9:30～9:55 地域社会の再編と社会教育・生涯学習Ⅳ

—自治公民館活動と学習活動—

植村秀人 (南九州大学)

9:55～10:20 「倉吉方式」の実践的帰結

—自治公民館長へのインタビューから—

丹間康仁 (筑波大学)

10:20～11:10 公民館主事の力量形成のあり方に関する事例研究

—飯田・下伊那地域社会教育史の研究(2)

○木下巨一 (松本大学・非常勤)、○小島一人 (飯田市役所)

○向井 健 (松本大学)、○朝岡幸彦 (白梅学園大学)

(討 論 11:10～11:30)

司 会 上田孝典 (筑波大学)

12:30～12:55 台湾生涯学習法制定の経緯と議論に関する一考察

山口香苗 (秋田大学)

12:55～13:20 国家通用語普及政策から見る中国民族地域の成人教育

: 21世紀の動向を中心に

白茹映雪 (東京大学大学院)

13:20～13:45 韓国・平生教育士の職能団体の現状と課題 (その2)

内田和浩 (北海学園大学)

13:45～14:10 ユネスコ生涯学習論をどう実践していくか

—"Making Lifelong Learning a Reality: A Handbook" の検討を中心に

新藤浩伸 (東京大学)

(討 論 14:10～14:30)

第8室 午前 〈市民運動〉

稲盛アカデミー棟 1F A11

司 会 久保内加菜（鎌倉女子大学）

9：30～9：55 戦後における就学猶予・免除の構造的要因と地域的分布

碓井健寛（創価大学）

9：55～10：20 障害者運動を通じた地域における障害者の主体形成に関する研究  
—1970年代から1990年代の「わらじの会」の運動を中心に—

長岡 甫（名古屋大学大学院）

10：20～10：45 都市日雇労働者の演劇作品の受容とその教育的性格

：アマチュア劇団・くるま座の上演活動を事例に

中山博晶（大阪公立大学）

10：45～11：10 人生の転機におけるネガティブ・ケイパビリティの教育的意義

—転機に直面している人々への社会教育的アプローチ—

佐々木 敦（東北大学大学院）

（討 議 11：10～11：30）

第8室 午後 〈子育て・学校・地域課題〉

稲盛アカデミー棟 1F A11

司 会 古里貴士（東海大学）

12：30～12：55 地域社会に「人生を語るコミュニティ」はいかに生まれるのか

松本 大（東北大学）

12：55～13：35 地域課題の克服過程におけるコミュニティ・ストーリーの再編

：北海道剣淵町における農業・福祉・社会教育の展開に即して

○若原幸範（聖学院大学）、○榊ひとみ（札幌学院大学）

吉田弥生（北海道大学）

13：35～14：00 持続可能な地域を守る現代的公害学習とシティズンシップ

二ノ宮リムさち（立教大学）

（討 議 14：00～14：20）

第9室 午前〈子育て・学校・地域課題〉

稲盛アカデミー棟 1F A12

司 会 恒吉紀寿（北九州市立大学）

9：30～9：55 子育ての共同を通した保護者の「学び」に関する検討

—A 保育園における保育者との日常の関わりに着目して—

城田美好（早稲田大学大学院）

9：55～10：20 働く人が出産・子育てを肯定的に選べる環境づくり

：社会教育的アプローチの検討

吉岡亜希子（北海道文教大学）

10：20～11：10 子ども支援における研修とキャリア形成

—NPO 法人北摂こども文化協会を事例に—

○井上大樹（札幌学院大学）、○川野麻衣子（北摂こども文化協会）

○深作拓郎（岩手大学）

（討 議 11：10～11：30）

第9室 午後〈子育て・学校・地域課題〉

稲盛アカデミー棟 1F A12

司 会 深作拓郎（岩手大学）

12：30～12：55 子どもの貧困に向き合う学生ボランティアの学び

—沖縄の『子どもの居場所』づくりに着目して—

千野たみ（筑波大学大学院）

12：55～13：20 開かれた大学づくり：大学生の自主活動を支える取り組みを中心に

金亨善（中央大学）

13：20～13：45 北海道における高校魅力化の課題

—市町村による学びの支援に着目して—

植井 真（北海道札幌あいの里高等支援学校）

13：45～14：10 放送と社会教育が育む新たな集合知

—地域の課題解決力は高まるか？—

末永貴哉（早稲田大学大学院）

（討 議 14:10～14:30）

**第10室 午前 〈グローバル化・現代的課題〉 稲盛アカデミー棟 1F A14**

司 会 吳世蓮（関東学院大学）

9：30～9：55 長期化する難民状況下における成人学習  
—タイ国境のミャンマー難民キャンプの事例—  
三宅隆史（立教大学）

9：55～10：20 多民族共生社会に向け、アイヌ民族の先住権を考える  
上野昌之（東京都立大学（非常勤））

10：20～10：45 モンゴル国遠隔集落住民の生活と生涯学習の課題  
—スフバートル県ハルザン村の事例—  
○ DAGVADORJADIYANYAM（東北大学）、松本 大（東北大学）

10：45～11：10 モンゴル民族の通過儀礼に関する研究序論  
—日本の子育て習俗研究からの示唆—  
張妍俊（東京都立大学大学院）

（討 議 11：10～11：30）

**第10室 午後 〈グローバル化・現代的課題〉 稲盛アカデミー棟 1F A14**

司 会 広瀬健一郎（鹿児島純心大学）

12：30～12：55 少数民族留学生家庭の子どもの教育とアイデンティティの構築  
—在日中国籍モンゴル族を事例に—  
朝木日洛格（東京都立大学大学院）

12：55～13：20 「余白」を過ごす若者にみるキャリア観とその変化  
—フォルケホイスコーレの若者たちの語りから—  
松永圭世（元九州大学大学院）

13：20～13：45 「本名を呼び名乗る実践」から考える在日外国人教育の課題  
—在日中国籍モンゴル人への聞き取り調査を中心に—  
趙梅榮（東京都立大学大学院）

13：45～14：10 インドネシアのCLCにおける起業学習による住民のエンパワーメント  
井上広夢（東北大学大学院）

（討 議 14：10～14：30）

## 倫理研修

学会としてコンプライアンスについて  
—特定事案(20230908)への対応を踏まえて—

14:45~16:15 共通教育棟1号館2F 121

司会 朝岡幸彦(白梅学園大学)

報告者 石川智士(埼玉中央法律事務所/学会顧問弁護士)

内容 特定事案(20230908)検証委員会の委員であり、被害者側弁護士との窓口として対応した経験を踏まえて、法律家として特定事案への対応から本学会に何が求められていると考えられるのか。また、これから学会として学問の自由及び表現の自由を確保しつつ、会員内外の人権を尊重するために何が必要と思われるのか。

## 総会

16:30~18:00 共通教育棟1号館2F 121

## 懇親会

19:00~21:00 稲盛記念館内2階(ヴェジマルシェ'19)

## 第3日目 9月14日(日)

## プロジェクト研究〈第1室〉

## 多文化・多民族共生を目指す社会教育の挑戦

9:00～12:00 共通教育棟1号館1F111

テーマ 多文化・多民族共生をめざす社会教育のあり方とは

司会 能勢桂介（立命館大学生存学研究所）

報告Ⅰ 「モンゴル民族教育の視点からみる社会教育における多文化・多民族共生」

ハスゲレル（東京都立大学）

報告Ⅱ 「『人権』を軸とした多文化・多民族共生と社会教育—識字・日本語教育の視点から」

岩槻知也（京都女子大学）

報告Ⅲ 「『差別・ハラスメント事件』の現在と社会教育学研究の課題」

野元弘幸（東京都立大学）

内容 2023年度から始まったPJ研究「多文化・多民族共生を目指す社会教育の挑戦」は、今度の研究大会をもって終了となる。多文化・多民族共生を考える上での社会教育の「価値」に焦点を当てていた2023年度六月集会から始まり、対象別の研究及び実践レビューを経て、「地域間格差」から眺めた日本の現状や脱植民地主義から捉える諸外国の事例分析、そして、2023年度研究大会における差別発言を踏まえた「当事者」として向き合うヘイトスピーチの重要性の再認識といった問題提起を積み重ねてきた。

今までの議論を振り返ったときに、次の3つの視点—民族、人権、差別—が浮き彫りとなった。第1に、最初の問題意識であった社会教育における「民族」概念の欠落が、民族的マイノリティの脱植民地化に対する問題意識の低さを生み出してきたのではないかということである。報告Ⅰにおいては、民族的マイノリティであるモンゴル民族教育の現状をとりあげ、社会教育における多文化・多民族共生の課題を明らかにする。

第2に、近年の国内外における排外主義的な言説の台頭等を背景とした「外国人の人権」に関する認識の欠如にどう対峙するかという問題がある。報告Ⅱでは、上記の問題を踏まえ「人権」を軸とした多文化・多民族共生に向けた社会教育の役割について、識字・日本語教育の観点から検討する。

最後に、社会教育が置かれている「いま」の状況を考えたときに、ヘイト問題をどのように考えるかがなおさら大事な論点の1つであるといえる。報告Ⅲでは、2023年9月の研究大会の多文化・多民族プロジェクトの発表の際に起きた「差別・ハラスメント事件」（「特定事案」）のその後の経過と現状を踏まえたうえで、今後の社会教育学研究をどのように展開すべきか、人権尊重・研究倫理の観点から考察する。

以上の報告を踏まえ、これからの社会教育の「あり方」を展望できる手掛かりを一緒に議論したい。

# プロジェクト研究〈第2室〉

## 男女平等・ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性

9:00~12:00 共通教育棟1号館2F121

テーマ 労働・ケア・家族と社会教育（その2）

—「労働」を契機とした学習はいかに可能か

司会 富永貴公（都留文科大学）、野依智子（福岡女子大学）

報告1 「労働とジェンダーをめぐる動向と学習の現状」

池谷美衣子（東海大学）

報告2 「若者の労働・キャリア形成とジェンダー

—九州の現状をふまえて—

中島ゆり（長崎大学・非会員）

報告3 「社会教育職員に埋め込まれたジェンダー問題

—非正規雇用専門職者の視点から—

廣森直子（大阪信愛学院大学）

コメント1 農村における学習運動の視点から

木下卓弥（石巻専修大学）

コメント2 地方が抱える課題と教育の視点から

飯島絵理（筑紫女学園大学）

内容 2000年代から今日に至るまで、「標準的な」労働者像、そして実際の労働の場は、どのように変わったか／変わっていないのか。それによって労働と生活とそれにかかわる学びは、どのように変わったか／変わっていないのか。このような労働者（像）や労働の場をめぐる問いを立てることは、家族のあり方の多様化、家族が直面する諸問題の複雑化と密接に結びついている。そのような家族を規定する法制度の現実も踏まえつつ、ケア、たとえば育児・家事・看護・介護が置かれた状況と社会教育実践の関係を考える。これら労働と家族をめぐる問いについて、ケアの視点から、つまり、「労働・ケア・家族」と捉えることによって、社会教育への展望をどのように生み出せるだろうか。

これらを考えるために、まずはプロジェクト研究1年目の到達点を踏まえ、先の六月集会では「労働・ケア・家族」の問題枠組みがもつ社会教育における意義と課題を検討した。これを受け、本研究大会では、実践に即した議論を行う。

# ラウンドテーブル

13:00~16:00 16号館

⑤は15:00終了

## ラウンドテーブル①

共通教育棟 2号館 1F 212

テーマ：子ども・ユースワークの活動と専門性（2）

—子ども・若者支援に携わる専門職の力量形成と研修等のあり方（8）—

コーディネーター 生田周二（奈良教育大学）

上野景三（西九州大学）

川野麻衣子（北摂こども文化協会）

報告 立柳 聡（福島県立医科大学）

内容 立柳聡会員から、子ども・若者の育成支援、とりわけ児童館や学童保育に関連する実践者の専門性の所在について、真理や事実に関する学問知や種々の経験も取り込みながら状況の変化に合わせて展開する「技能知」を中心に報告を受けます。報告を踏まえて、具体的実践場面を想定した知識・技能・価値・センスの所在、社会教育的な支援の位置づけ、養成・研修のあり方などについて意見交換し、専門性の構造について議論を深める予定です。

## ラウンドテーブル②

共通教育棟 2号館 1F 213

テーマ：多文化・多民族共生と社会教育

コーディネーター 野元弘幸（東京都立大学）

広瀬健一郎（鹿児島純心大学）

報告 三神（島崎）直美

（一般社団法人ウレシパ・モシリ代表理事／アイヌ民族料理研究家）

内容 アイヌ民族文化の次世代への継承を目指して北海道えりも町で地域にねざした教育・文化活動を行っている三神（島崎）直美さんに、活動の概要と社会教育研究への期待を報告してもらおう。また、今研究大会で終えるプロジェクト研究「多文化・多民族共生を目指す社会教育の挑戦」のまとめの議論や意見交換も合わせて行う予定である。

### ラウンドテーブル③

共通教育棟 2 号館 1F 214

テーマ：男女平等・ジェンダー公正への模索―鹿児島／九州の実践に学ぶ

コーディネーター 辻 智子（北海道大学）

話題提供 平神純子（南さつま市議、鹿児島内の女性議員を 100 人にする会代表）  
高崎 恵

（鹿児島県子どもたちの男女共同参画学びの広場推進事業コーディネーター）

コメント 女性の学習の視点から

矢内琴江（早稲田大学）

男女共同参画センター職員の視点から

赤池紀子（川崎市人権・男女共同参画室）

内 容 プロジェクト研究「男女平等 / ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性」は、本大会より 3 年目に入る。これまでの 2 年間の研究活動を踏まえ、最終年は、地域社会の意思決定過程や自治の場におけるジェンダー公正の課題と、そこにかかわる学習の可能性、そして、教育の政策、法制度、機関、施設、組織の展望を検討する予定である。そこで、今回は、鹿児島で長年、活動を積み重ねてこられた方に、その実践や活動の経験とそこから見える問題を報告いただき、現状と課題を整理し、参加者と議論を行いたい。

### ラウンドテーブル④

共通教育棟 2 号館 1F 215

テーマ：人口減少社会における「高等教育と生涯学習」再考 2 ―地域人材育成を中心として―

コーディネーター 出相泰裕（大阪教育大学）

上原直人（名古屋工業大学）

報 告 寺岡行雄

（鹿児島大学農学部教授・前高等教育研究開発センター生涯学習部門長）

履修証明プログラム修了生ほか

コメンテーター 堀本麻由子（東洋大学）

山本健慈（学校法人大阪観光大学理事長）

内 容 第 71 回研究大会ラウンドテーブルの続編であり、今回のテーマは「地域人材育成と高等教育」である。事例として鹿児島大学農学部が、林業の生産現場管理者を対象に 18 年以上継続実施する社会人の学び直し「林業生産専門技術者養成プログラム」を取り上げる。報告では、長期にわたる運営側の試行錯誤、および、同プログラムの受講者側の学習過程とその変容に着目し、労働・職業教育における社会教育研究としての課題を検討する。

ラウンドテーブル⑤

共通教育棟 2号館 1F 217

---

テーマ：社会教育主事養成課程での学び

—卒業を控えた学生へのグループインタビューを基に（その2）

コーディネーター 若園雄志郎（宇都宮大学）

渋江かさね（静岡大学）

報告 杉山晋平（明治大学）

倉持伸江（東京学芸大学）

内容 社会教育主事養成課程（以下、養成課程）を履修した学生が、どのような学びを経験したかについて知るために、養成課程で学び卒業を控えた状況にある複数の大学の学生に、グループインタビューを実施した。本ラウンドテーブルでは、6月集会に引き続き、インタビュー結果より学生の学びの契機や生活経験とのかかわり、それらを捉える視点や枠組みを追究する。そのことを通して、養成課程のあり方を多面的に考えあう機会としたい。

## 生涯学習と社会教育の基礎

津田 英二・伊藤 真木子・鈴木 眞理 編著

A5判 / 並製 / 192頁 定価 2,420円



## 新SDGs論

—現状・歴史そして未来をとらえる

田中 治彦 著

四六判 / 並製 / 160頁 定価 2,090円



## 社会教育・生涯学習入門

—誰ひとり置き去りにしない未来へ

二ノ宮リム さち・朝岡 幸彦 編著

A5判 / 並製 / 160頁 定価 2,200円



## これからの地方創生・関係人口

—関係人口から持続可能な地域の創り手へ

岩本 泰 編著

A5判 / 並製 / 160頁 定価 2,200円



## ミュージアムABCシリーズ <全3巻>

各巻▶B5判 / 並製 / 168頁 定価 2,530円

### ビジュアル博物館学 Art

水嶋 英治・小泉 優莉菜・佐々木 淑美 編著

### ビジュアル博物館学 Basic

水嶋 英治・高橋 修・山下 治子 編著

### ビジュアル博物館学 Curation

水嶋 英治・小川 義和・中村 隆 編著



## 持続可能な社会をつくる

### 幼児期のESD論—子どもと環境

降旗 信一・菊池 稔 編著

A5判 / 並製 / 160頁 定価 2,200円



## ワーク・ライフ・バランスと

### 生涯学習—すべての働く人々のために

小川 誠子 著

A5判 / 並製 / 160頁 定価 2,200円



「人間と「言葉」を  
洞察する出版社



にんげん どう

人言洞 <NingenDo LLC>

〒234-0052 神奈川県横浜市港南区笹下 6-5-3

mail info@ningendo.net

website https://www.ningendo.net



## 生涯学習と地域づくり のハーモニー —社会教育の可能性

●田中雅文 監修/柴田彩千子・  
宮地孝宜・山澤和子 編著

定価2,200円

「生涯学習」研究に取り組んできた執筆者が、「学校と地域」「共生社会」「子育て支援」「おとなの学び合い」をテーマに編纂した実践論集。



## 早稲田教育ブックレット 34

### 不登校問題と子ども・若者の「居場所」の現在

—不登校の子ども  
が生きる「社会」を拓く

●早稲田大学教育総合研究所 監修 定価1,100円

不登校問題の変化、フリースクールの子どもの思い等を、子ども若者の居場所と学校の視点と先進事例を交え、議論する。



## 動物園と水族館の教育

—SDGs・ポストコロナ社会における現在地

●朝岡幸彦 編

定価2,090円

博物館としての動物園・水族館の位置づけを確認し、コミュニティ機能を強めつつある動物園・水族館の未来を見据える。



## 社会教育経営の基礎 第2版

●山本珠美・熊谷慎之輔・松橋義樹 編

定価2,860円

「社会教育主事講習等規程の一部を改正する省令」に対応。「社会教育経営論」の基礎テキスト。博物館法について加筆修正した2版。



## 「ESDでひらく未来」シリーズ 社会教育・生涯学習論 改訂版

—自分と世界を変える学び

●鈴木敏正・朝岡幸彦 編著

定価2,090円

社会教育・生涯学習の基本について地域での実践例を通し理解を深める。



## 生涯学習支援の基礎

●小池茂子・本庄陽子・大木真徳 編著 定価2,530円

学習・学習意欲・学習活動を高める支援理論について体系的に整理解説。



## 日本と韓国における多文化教育の比較研究

—学校教育、社会教育および地域社会における取り組みの比較を通して

●呉世蓮 著

定価3,850円

日本と韓国の法制度や政策、言語的・文化的な教育活動を比較。



## 就「社」社会で就「職」する若者たち

—専門学校生の初期キャリア

●片山悠樹 編著

定価3,080円

「会社員」「職業」中心のキャリアの違いを意識し、若者のキャリア形成を検討。



## 高校と地域のパートナーシップ

—協働が未来を拓く

●荻原彰・小玉敏也 編著

定価2,640円

多様化する学校の地域協働を5つのカテゴリに整理し、実践事例等を紹介。



## 批判的思考と道徳性を育む教室

—「論争問題」がひらく共生への対話

●ネル ノディングス・ローリー ブルックス 著

定価2,970円

山辺恵理子 監訳/他訳  
答えの出ない問題をどう扱い子どもたちと考えるか。対話が紡ぐ共生の道。



〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1  
http://www.gakubunsha.com

学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012  
E-mail: eigyo@gakubunsha.com

---

## 日本社会教育学会 第72回研究大会プログラム

2025年7月31日発行

**【発行】** 日本社会教育学会事務局

〒189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

E-mail : [jssace.office@gmail.com](mailto:jssace.office@gmail.com)    <http://www.jssace.jp/>

**【会費等納入先】**

ゆうちょ銀行 振替口座 00150-1-87773 (口座名：日本社会教育学会)

他金融機関からの振込用口座番号 〇一九 (ゼロイチキュウ) 店 (019) 当座 0087773

---